

大手前大学 授業アンケート集計報告

20260925 教学運営室IR担当

実施対象科目／2025年度 春・秋学期 開講科目 ※大学コンソーシアム等共通単位開講科目除く

実施方法／Web回答（本学独自LMS「el-Campus」にて実施を事前告知）

実施期間／春・秋学期 当該学期間を回答可能とし、原則として授業最終日に10分程度の回答時間を設け、授業終了後2週間までを学生入力期間とした。

対象学生／全学部・全学年（※授業履修者）

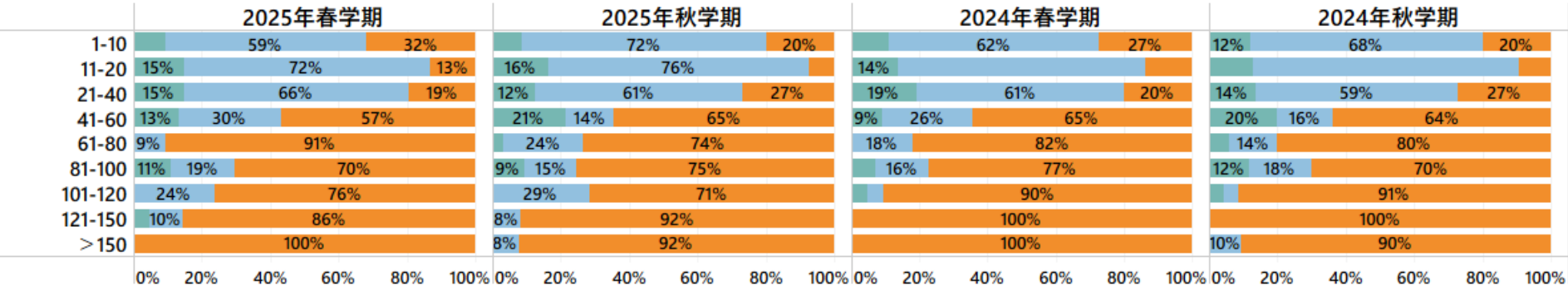
・授業数（授業形態別）と回答数

※回答率は、下表「回答数」を実施科目の履修者数で除したもの

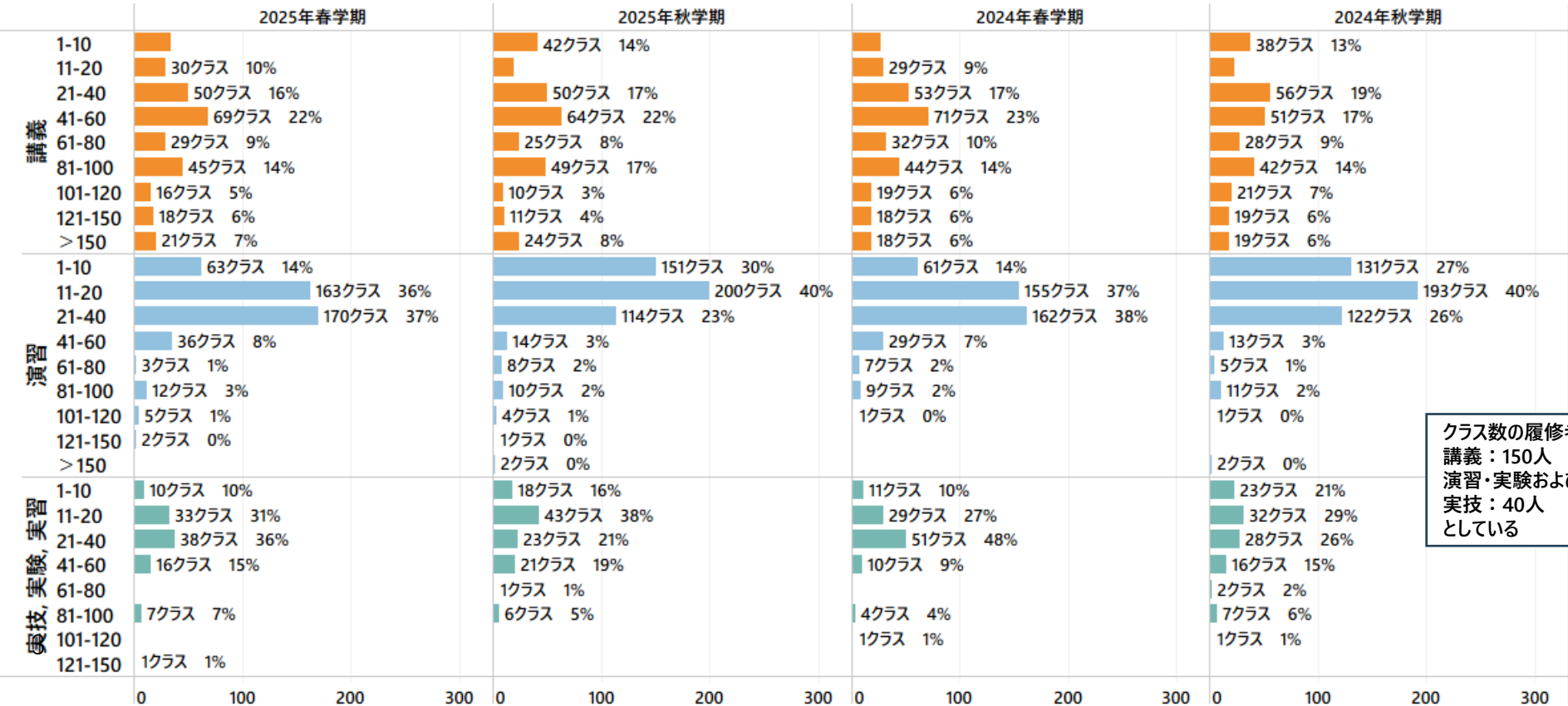
学期	講義				演習				実技/実験/実習				計			
	対象授業数	履修者数	回答数	回答率	対象授業数	履修者数	回答数	回答率	対象授業数	履修者数	回答数	回答率	対象授業数	履修者数	回答数	回答率
春学期	312	20,372	9,854	48.4%	454	11,225	6,228	55.5%	105	2,985	1,449	48.5%	871	34,582	17,531	50.7%
秋学期	295	19,378	8,665	44.7%	504	10,250	5,148	50.2%	112	2,886	1,241	43.0%	911	32,514	15,054	46.3%
計	607	39,750	18,519	46.6%	958	21,475	11,376	53.0%	217	5,871	2,690	45.8%	1,782	67,096	32,585	48.6%

【参考】2024年度回答率 春学期:45.8% 秋学期:39.2% 計:42.6%

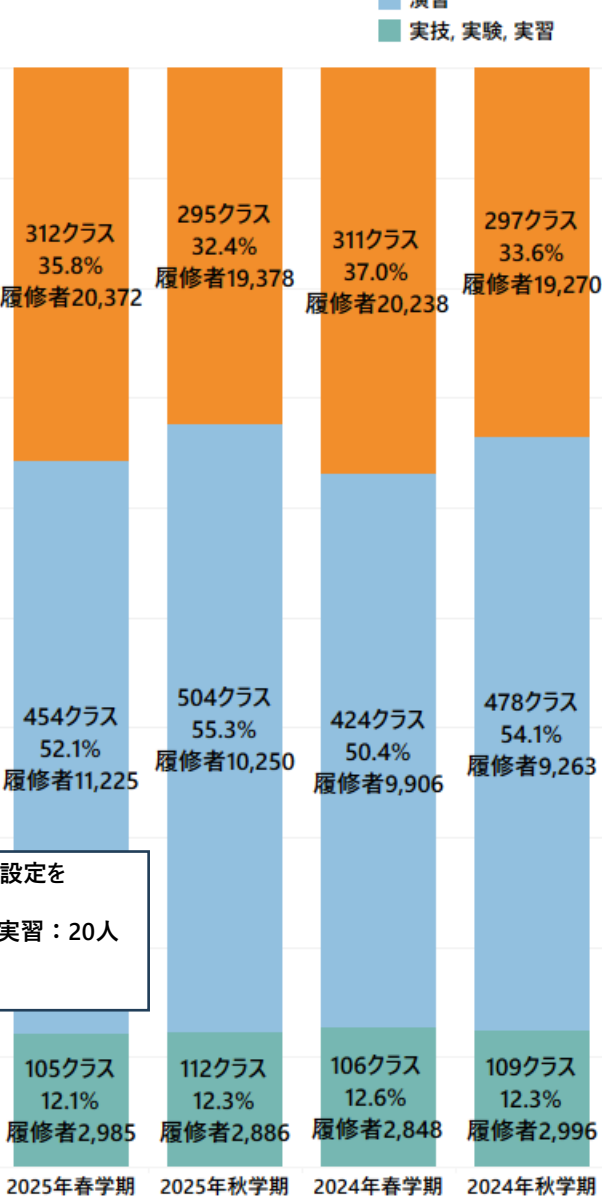
履修者数×授業形態の割合



履修者数（グループ化）×授業クラス数



授業形態別クラス数・割合・履修者総数



クラス数の履修者設定を
講義：150人
演習・実験および実習：20人
実技：40人
としている

授業アンケート設問

A: アンケートに答えるにあたり (設問1・2)

- 1 あなたは、この授業によく出席しましたか?
- 2 あなたは、予復習など自主的な学習努力をしましたか?

B: この授業についてお聞きします (設問3～6)

- 3 この授業に対する教員の熱意を感じましたか?
- 4 授業内容は授業概要 (シラバス) に沿っていましたか?
- 5 教材・資料の提示は適切でしたか?
- 6 授業の組み立て、時間配分は適切でしたか?

C: 授業を受けてみて (設問7～10)

- 7 あなたは、授業内容をよく理解することができましたか?
- 8 自発的な学習が促されましたか?
- 9 有用な知識や情報を修得できましたか?
- 10 この授業内容をさらに勉強したいという意欲がわきましたか?

D: C-PLATS効果について (設問11・12)

※1・2年次生は回答せず設問13以降へ

- 11 この授業を履修して、思考力、行動力、表現力などといったC-PLATS能力が伸びたと思いますか?
- 12 能力が伸長したと思う人は、どのような能力が伸長したか、あてはまるものをすべて選んでください。(個数制限なし)

E: 授業全体として総合評価すると (設問13～15)

- 13 あなたは、この授業を全体としてどう評価しますか?
- 14 あなたは、この授業について、1週間当たり平均何時間の授業時間以外の事前事後学習をしましたか?
- 15 あなたが良いと思った点と改善してほしいと思った点を自由に記述してください。【回答省略】

回答選択項目と数値化

各設問の回答肢は次の通り。

設問 回答肢

1～11 ①そう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

12 ①分析力 ②創造力 ③計画力 ④論理的思考力 ⑤プレゼンテーション力 ⑥行動力 ⑦コミュニケーション力 ⑧リーダーシップ
⑨チームワーク ⑩社会的責任

13 ①とても良かった ②良かった ③あまり良くなかった ④良くなかった

14 ①0時間(h) ②0.5h未満 ③0.5h以上1h未満 ④1h以上2h未満 ⑤2h以上3h未満 ⑥3h以上

回答結果を数値 (pt) 化し、平均値算出等を利用している。

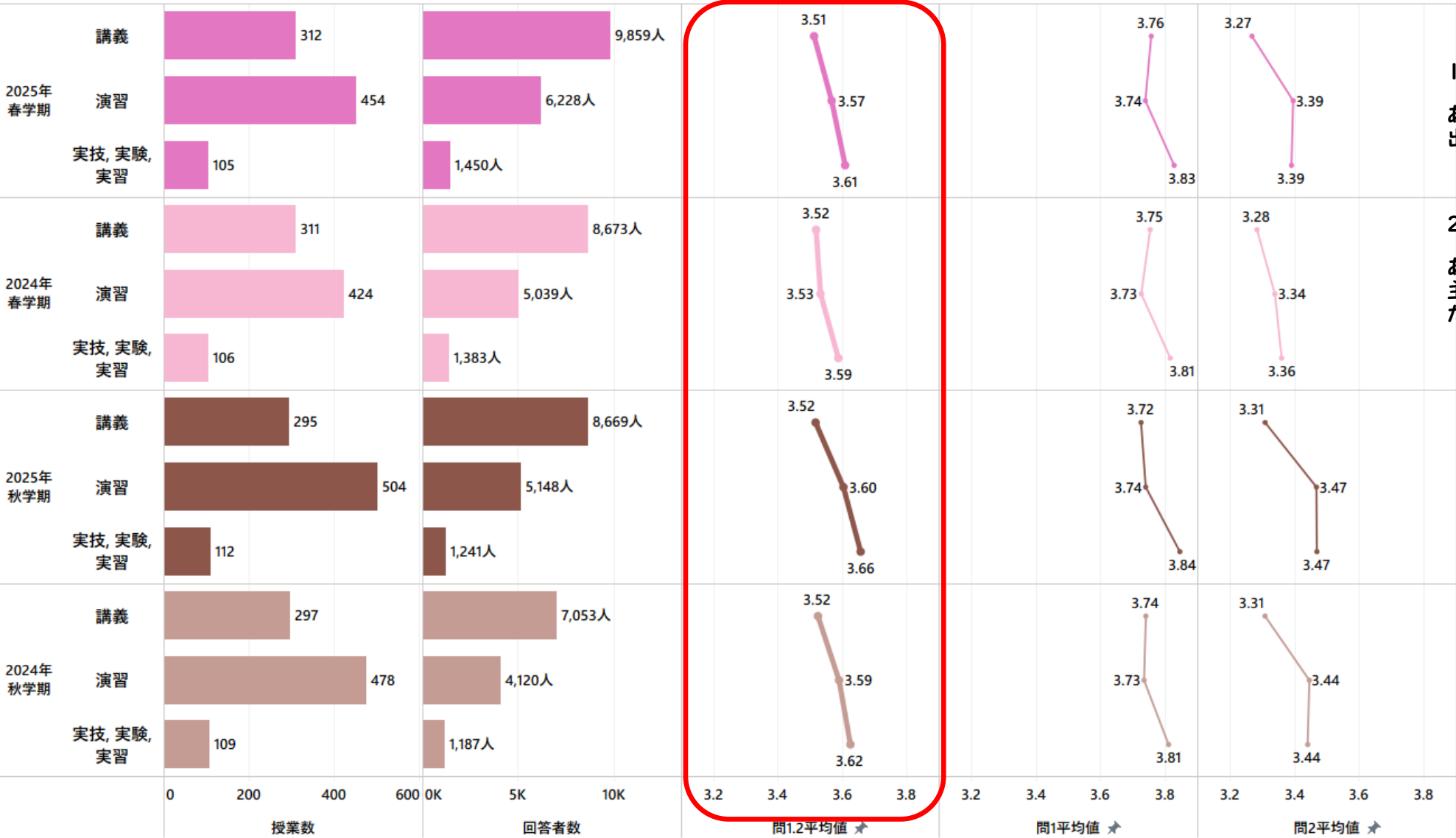
設問	回答肢の数値化							
1～11	①そう思う	4pt	②ややそう思う	3pt	③あまりそう思わない	2pt	④そう思わない	1pt
13	①とても良かった	4pt	②良かった	3pt	③あまり良くなかった	2pt	④良くなかった	1pt

集計結果

集計について、各設問の平均値および、P4記載のA～E区分に分類した平均値を算出したものと、設問12本学独自の成長度を可視化した【C-PLATS能力の選択】と設問14（授業外学習時間）の選択数累計を示す。 ※全質問項目において実技・実習系で履修者数が多い授業は看護実習や教育実習など

授業数と回答者数について、次ページ以降のデータ数も本ページと同じ

問1・2 A：アンケートに答えるにあたり【学生努力項目】 ・赤枠は各問の平均値

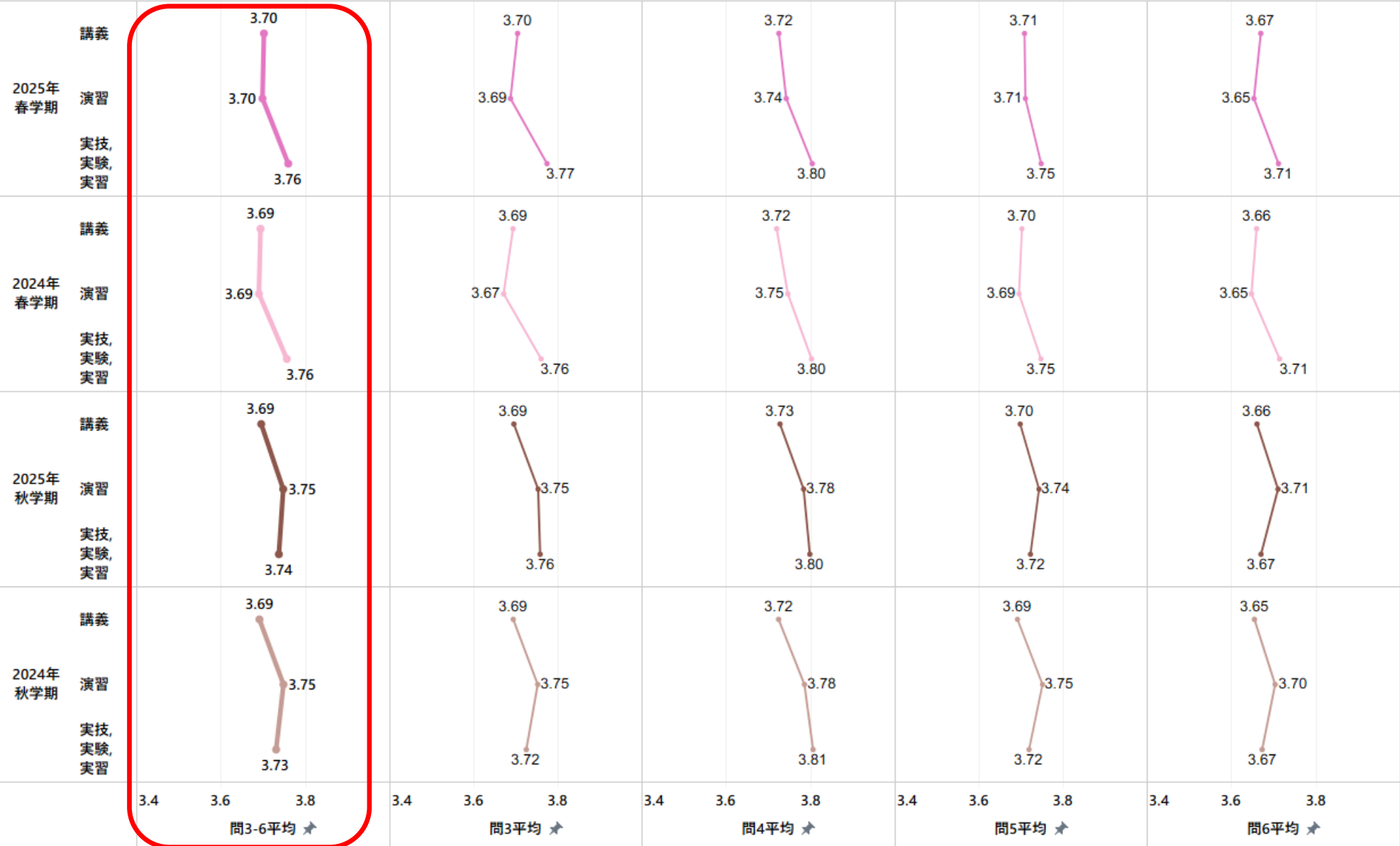


1
あなたは、この授業によく出席しましたか？

2
あなたは、予復習など自主的な学習努力をしましたか？

集計結果

問3～6 B：授業について ・赤枠は各問の平均値

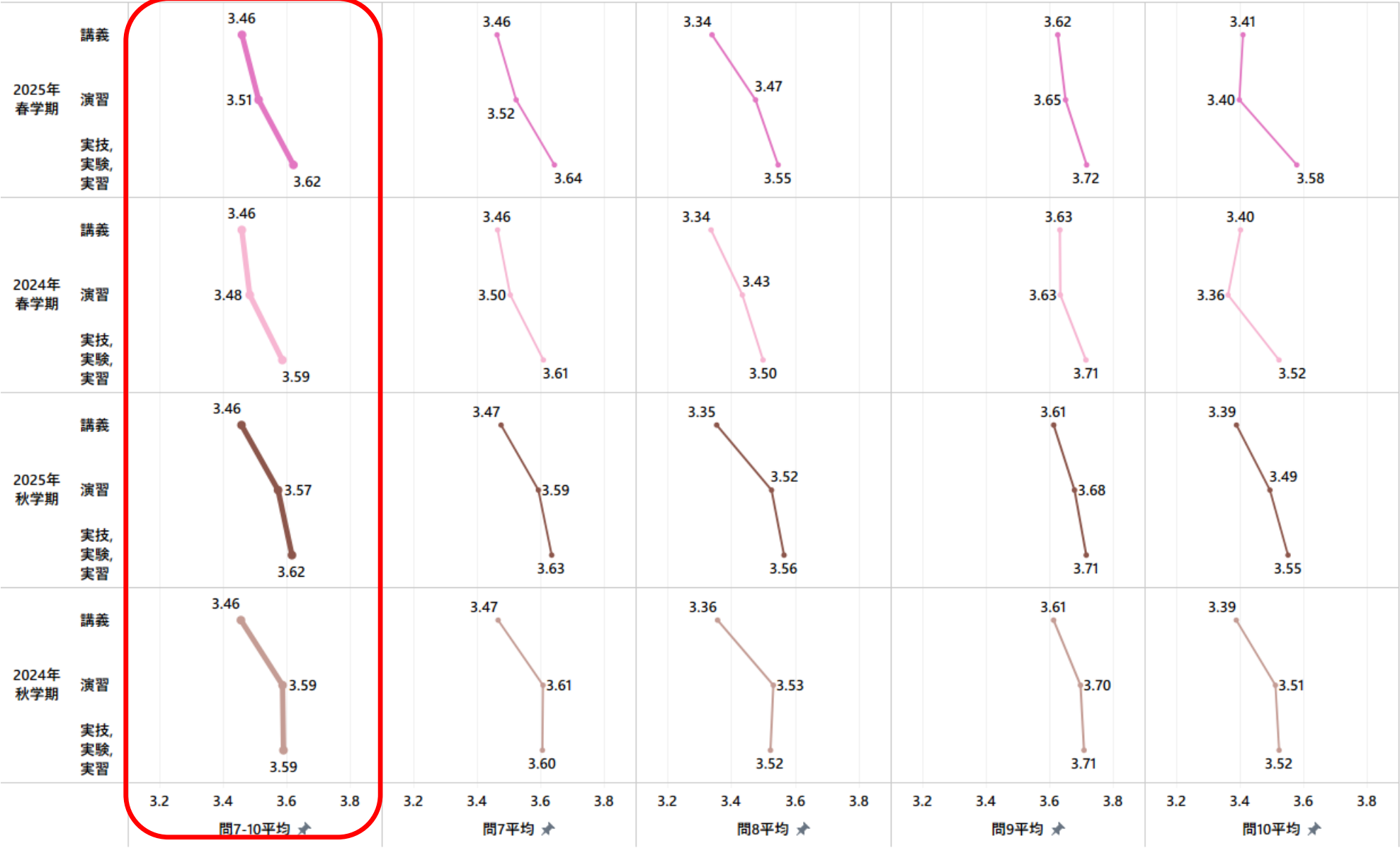


- 3
この授業に対する
教員の熱意を感じ
ましたか？
- 4
授業内容は授業概
要(シラバス)に
沿っていましたか？
- 5
教材・資料の提示
は適切でしたか？
- 6
授業の組み立て、
時間配分は適切で
したか？

集計結果

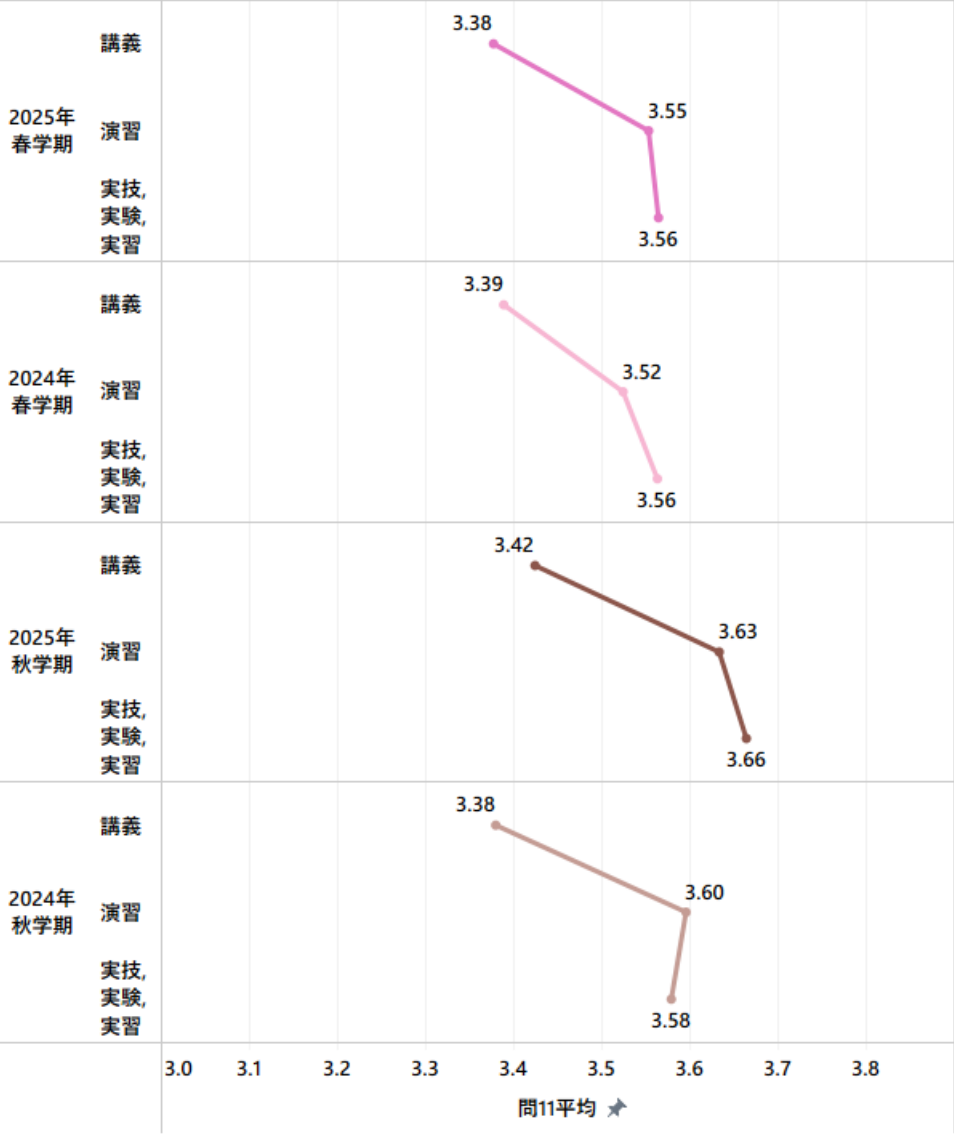
- 7 あなたは、授業内容をよく理解することができましたか？
- 8 自発的な学習が促されましたか？
- 9 有用な知識や情報を修得できましたか？
- 10 この授業内容をさらに勉強したいという意欲がわきましたか？

問7～10 C：授業を受けてみて ・赤枠は各問の平均値

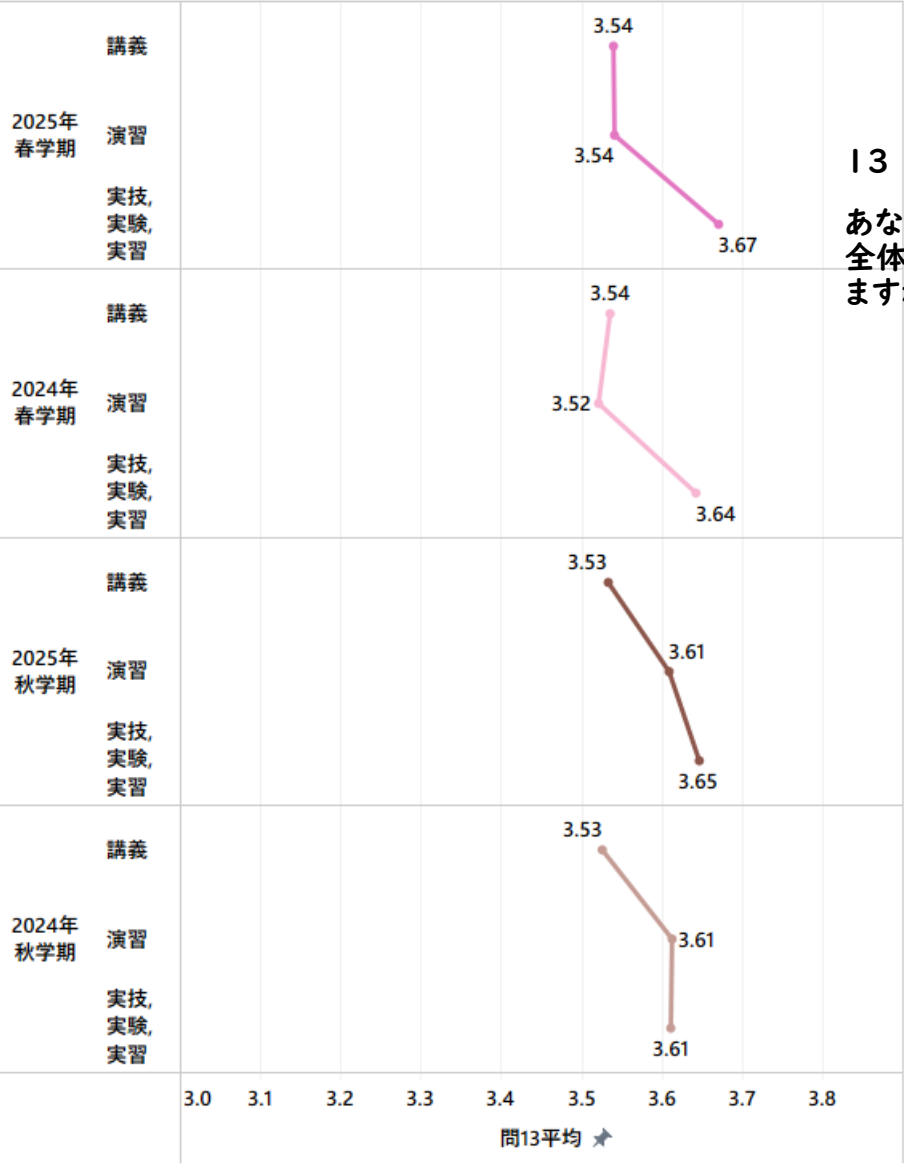


集計結果

問11 D：C-PLATS効果について ※24・25年度入学者はC-PLATS対象外のため除外



問13 E：授業全体の総合評価



11

この授業を履修して、思考力、行動力、表現力などといったC-PLATS能力が伸びたと思いますか？

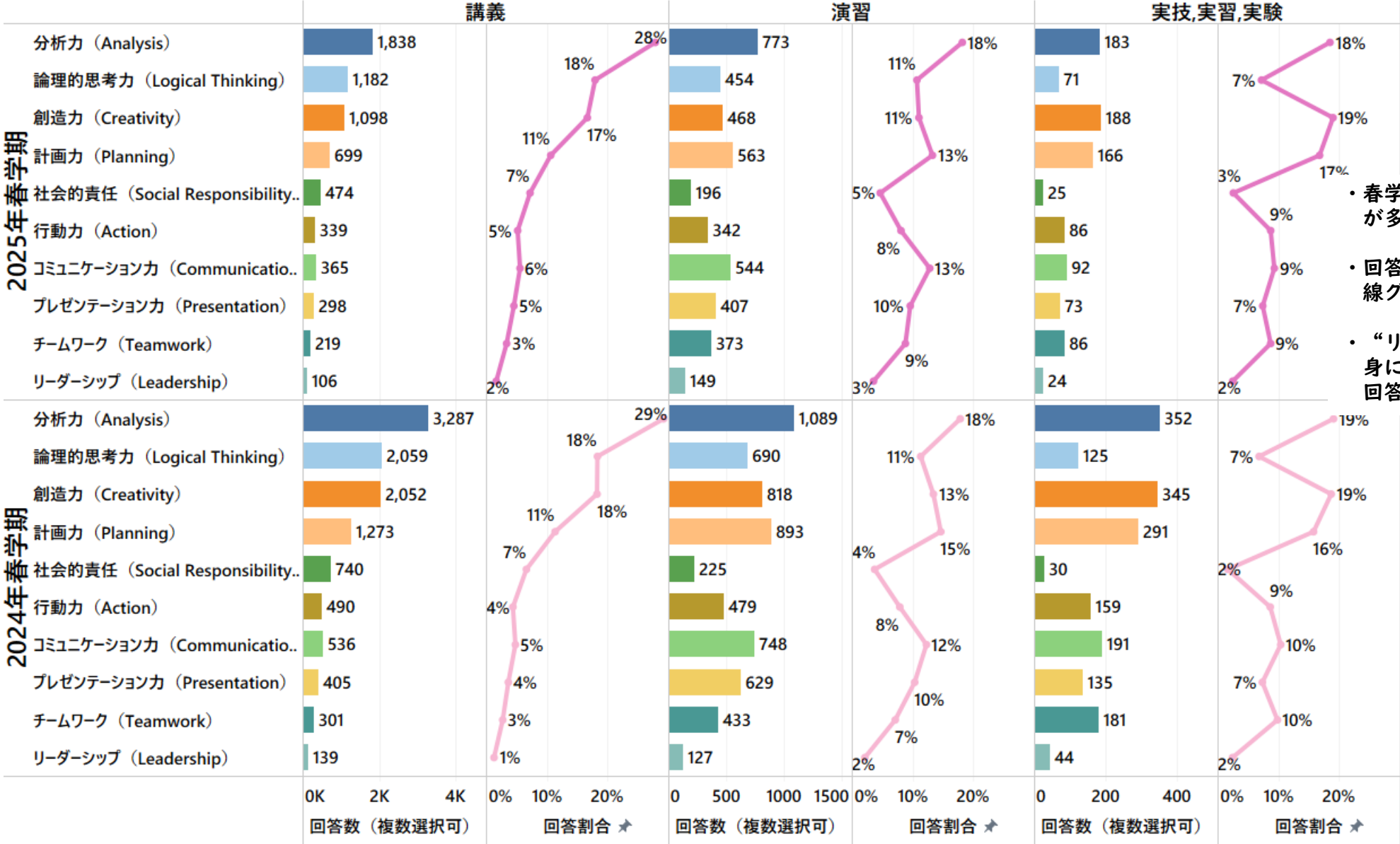
毎年“C-PLATS能力が伸びた”と答える学生は講義系より実習系に多い傾向にある。

13

あなたは、この授業を全体としてどう評価しますか？

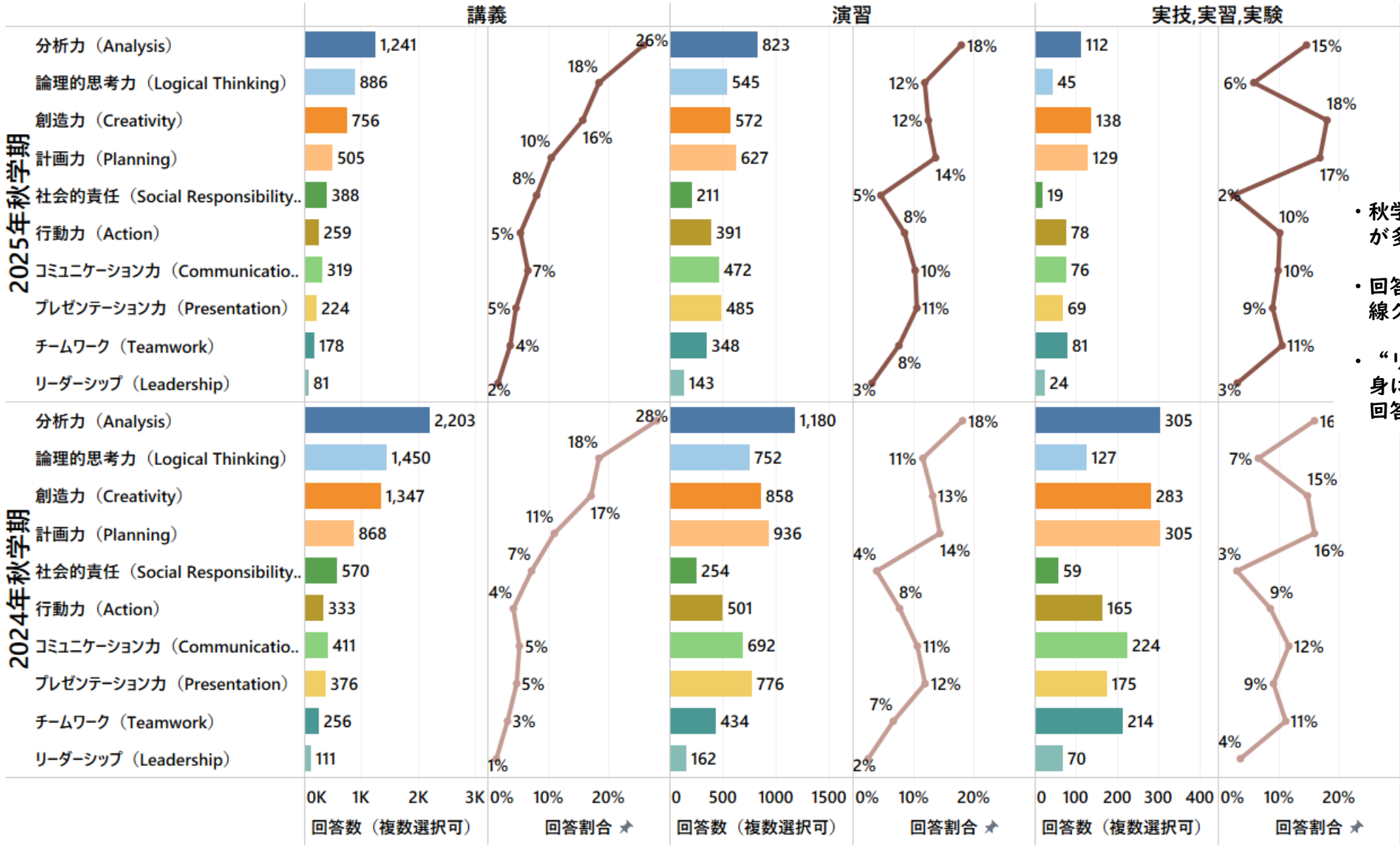
集計結果（春学期）

問12 C-PLATS 伸びたと思う能力の選択（複数選択可） ※24・25年度入学者はC-PLATS対象外のため除外



集計結果（秋学期）

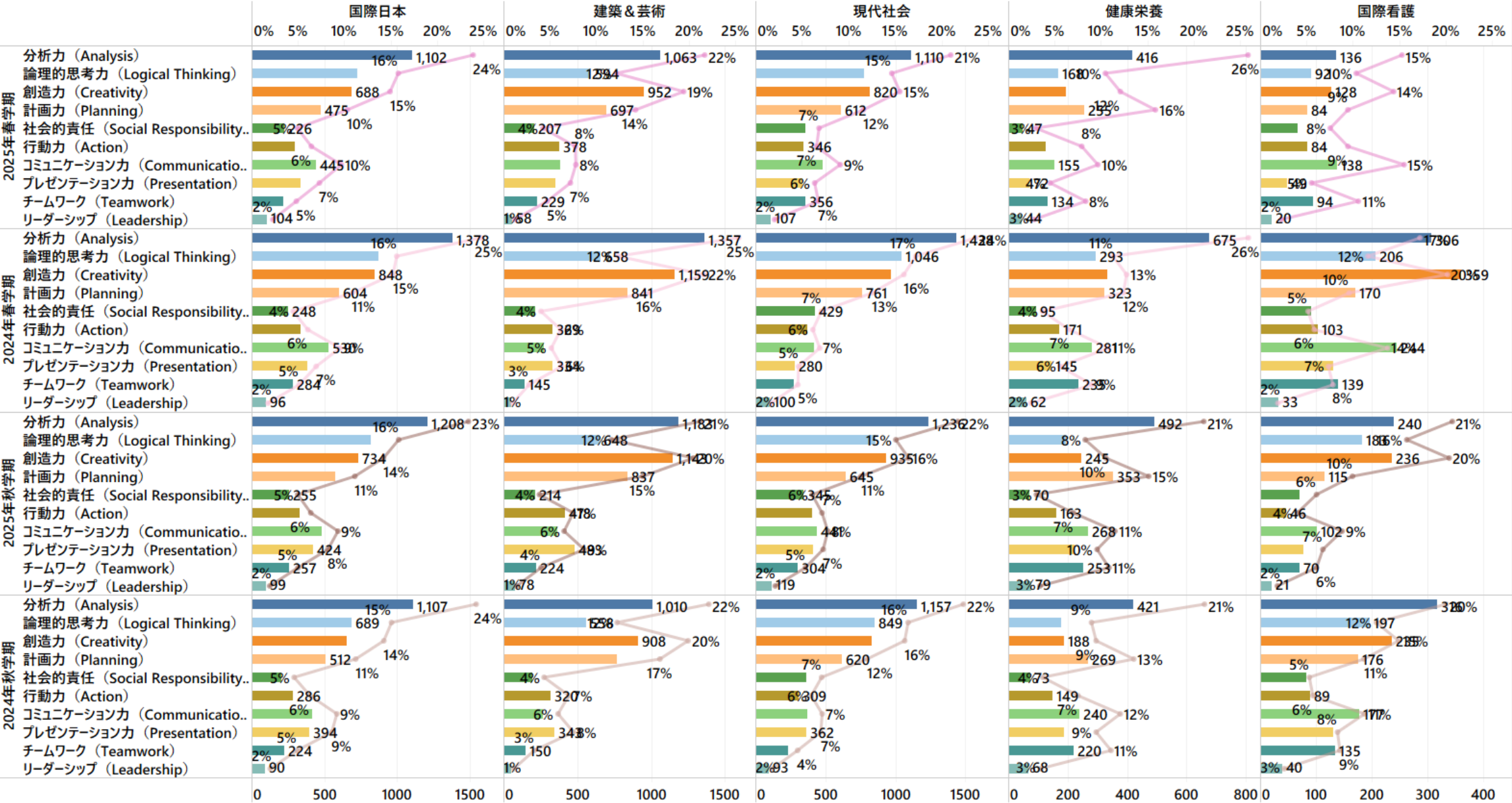
問12 C-PLATS 伸びたと思う能力の選択（複数選択可） ※24・25年度入学者はC-PLATS対象外のため除外



- ・ 秋学期「講義」の選択件数が多い能力順にソート
- ・ 回答項目の割合を示す折れ線グラフは毎年同じ傾向
- ・ “リーダーシップ” 身についたという回答は春学期同様毎年低い

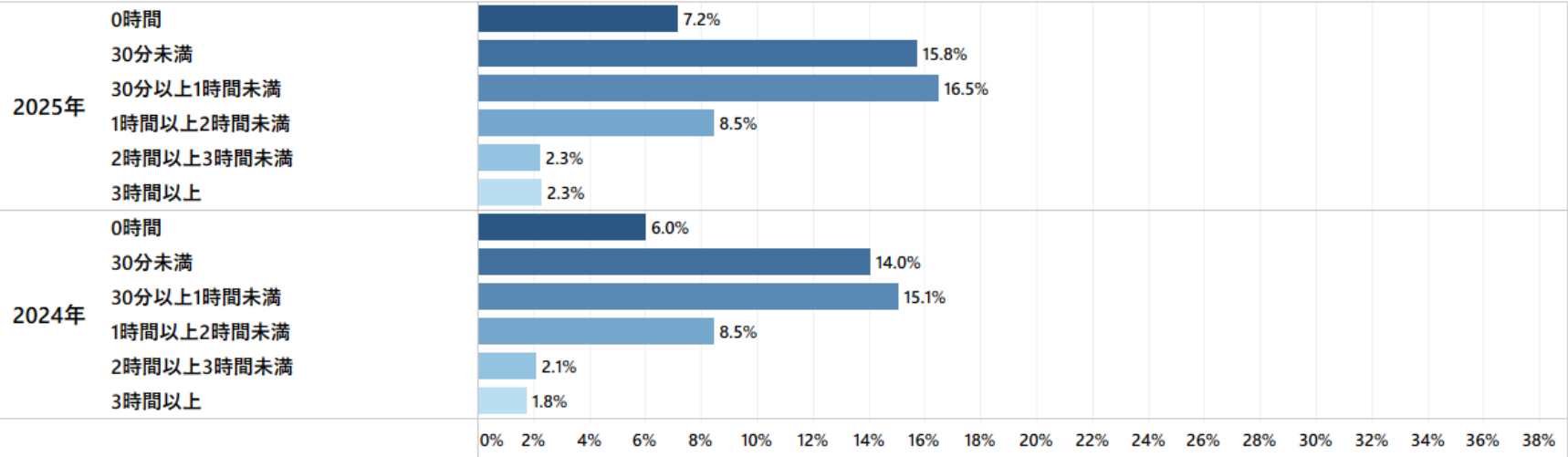
集計結果

問12 C-PLATS 【学部別】伸びたと思う能力の選択（複数選択可） ※24・25年度入学者はC-PLATS対象外のため除外

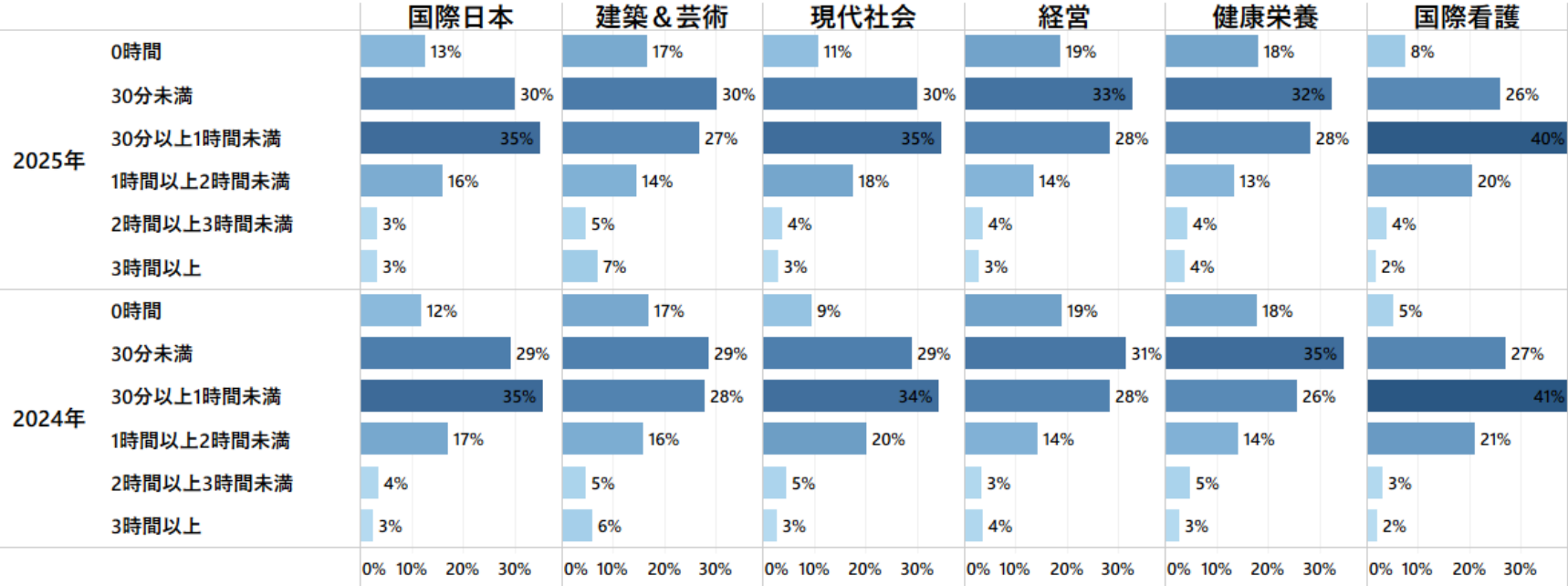


集計結果

問14 【授業時間外事前事後学習】全回答※1授業あたりの1週間平均学習時間 科目履修生等除く



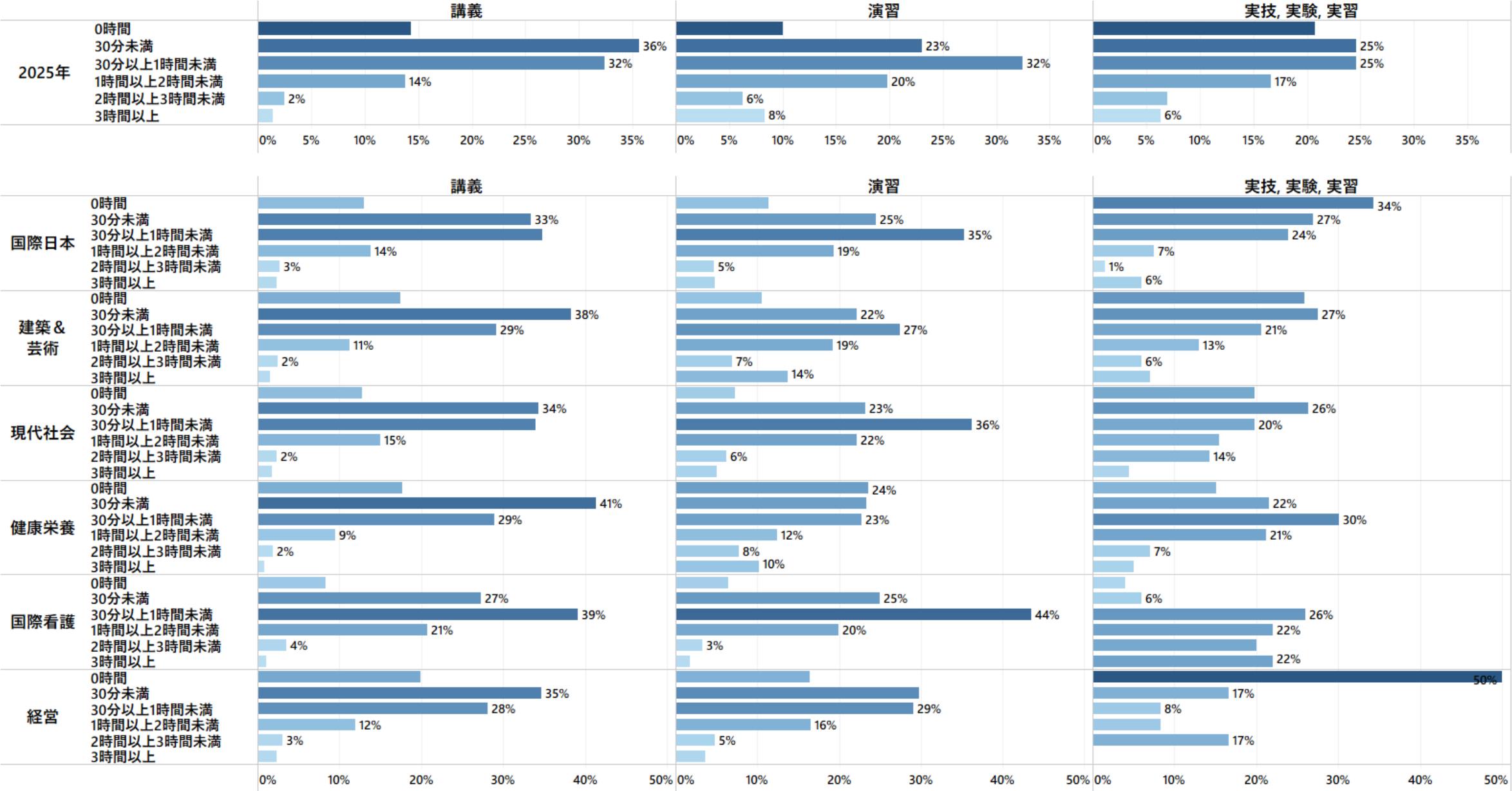
学部別



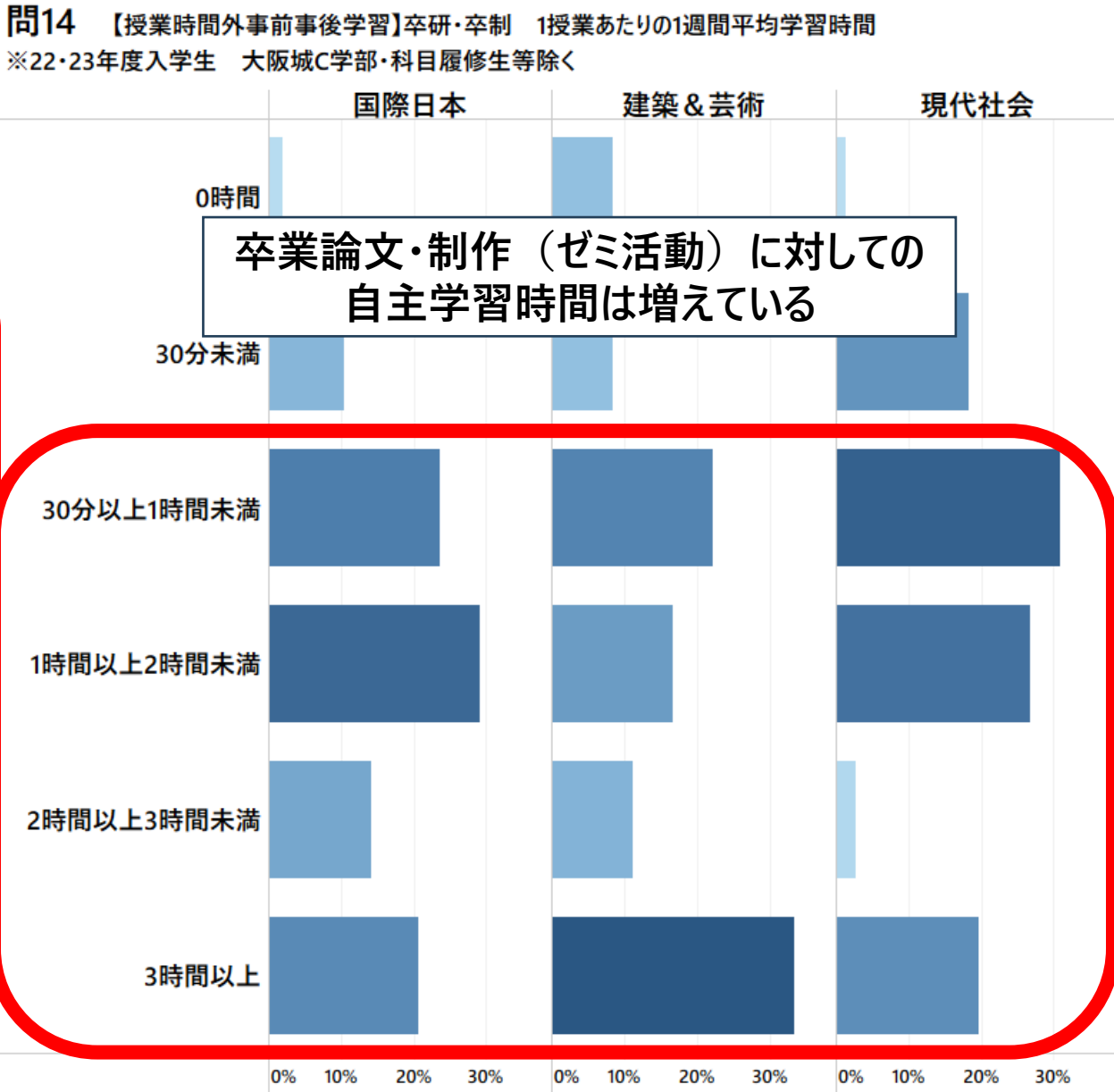
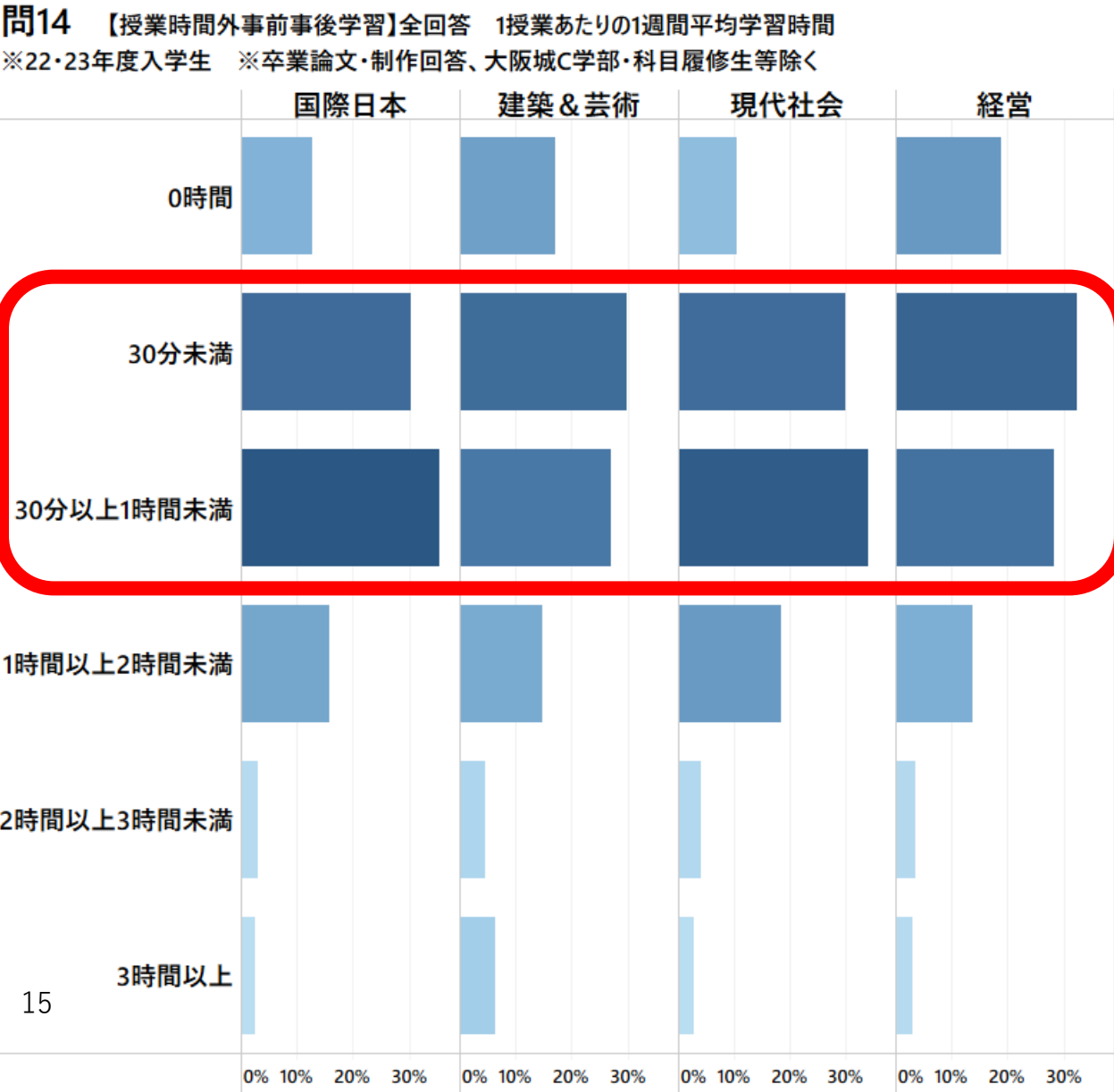
集計結果

問14 授業形態別

【授業時間外事前事後学習】Ⅰ授業あたりのⅠ週間平均学習時間



授業外学習時間の卒業論文・制作授業との比較



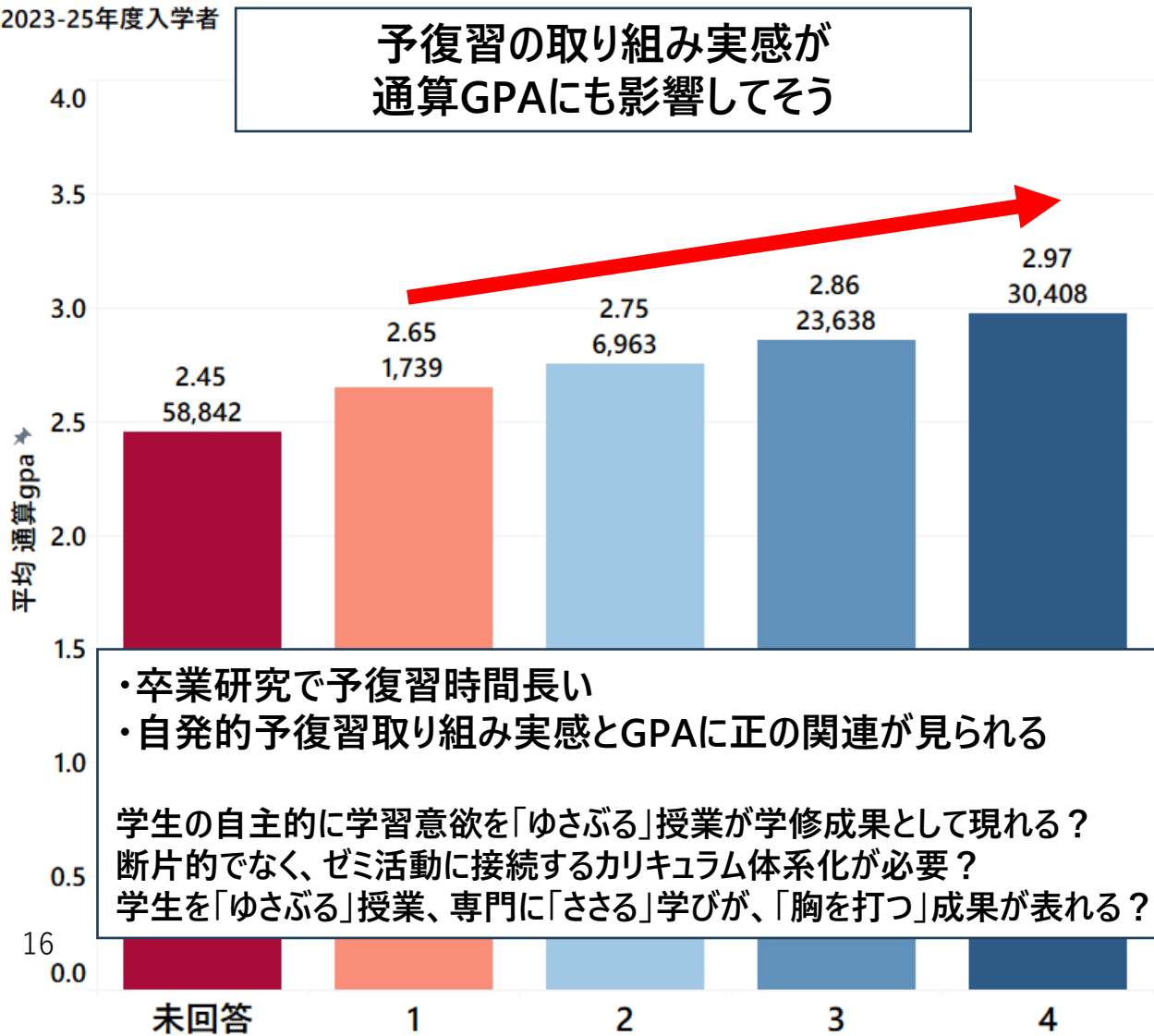
学生の授業後の感覚的評価とGPAとの違い

※いずれも全授業データのため参考程度として

学生がその授業の予復習などの自主的学習努力をしたかどうか

×通算GPA ※データ結合できなかった学生除く

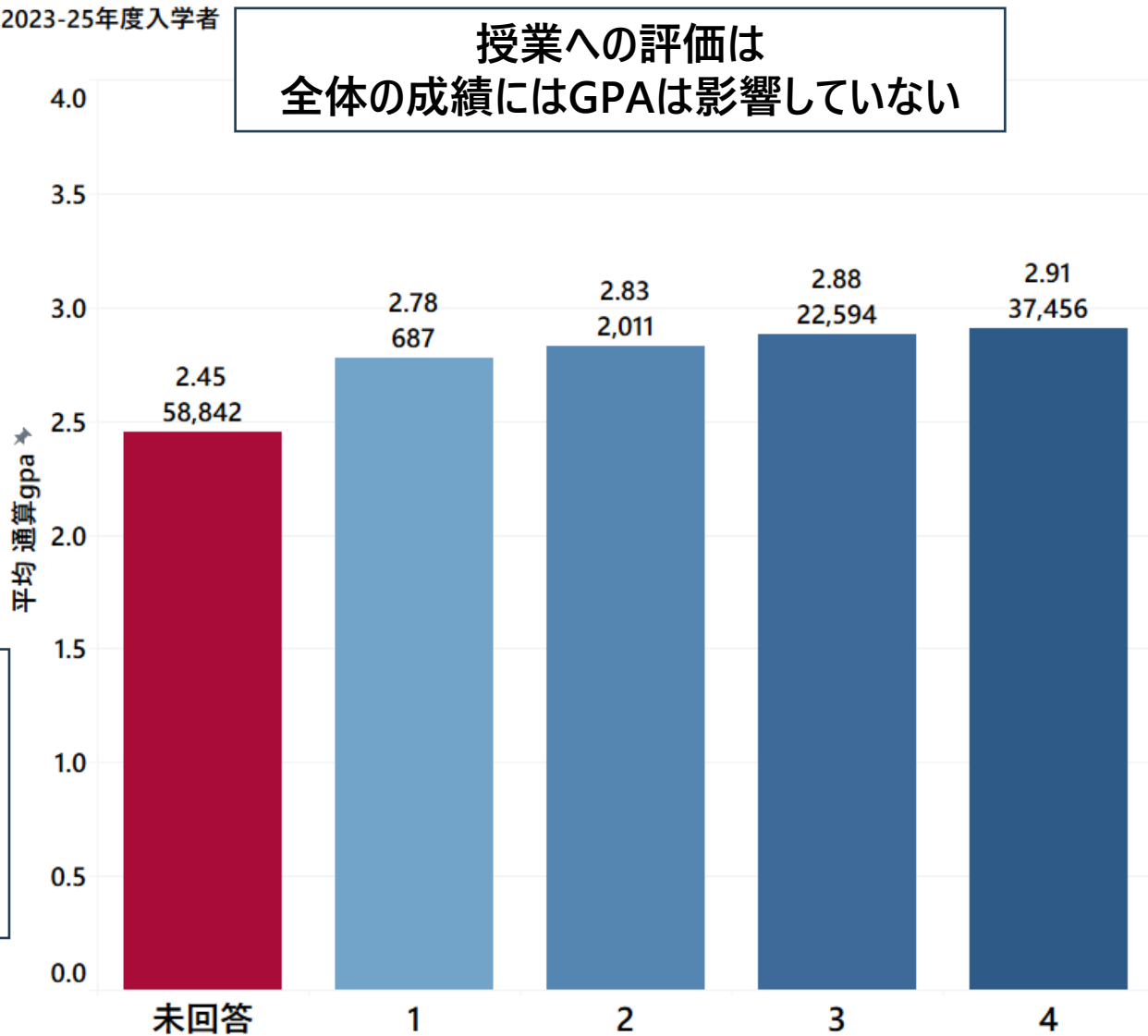
2023-25年度入学者



学生が授業を受けた後の総合評価

×通算GPA ※データ結合できなかった学生除く

2023-25年度入学者



授業アンケート設問

A: アンケートに答えるにあたり(設問1・2)

- 1 あなたは、この授業によく出席しましたか?
- 2 あなたは、予復習など自主的な学習努力をしましたか?

B: この授業についてお聞きします(設問3~6)

- 3 この授業に対する教員の熱意を感じましたか?
- 4 授業内容は授業概要(シラバス)に沿っていましたか?
- 5 教材・資料の提示は適切でしたか?
- 6 授業の組み立て、時間配分は適切でしたか?

C: 授業を受けてみて(設問7~10)

- 7 あなたは、授業内容をよく理解することができましたか?
- 8 自発的な学習が促されましたか?
- 9 有用な知識や情報を修得できましたか?
- 10 この授業内容をさらに勉強したいという意欲がわきましたか?

2027年度不要と思われる質問項目

D: C-PLATS効果について(設問11・12)

※1・2年次生は回答せず設問13以降へ

11 この授業を履修して、思考力、行動力、表現力などといった
C-PLATS能力が伸びたと思いますか?

12 能力が伸長したと思う人は、どのような能力が伸長したか、
あてはまるものをすべて選んでください。(個数制限なし)

E: 授業全体として総合評価すると(設問13~15)

- 13 あなたは、この授業を全体としてどう評価しますか?
- 14 あなたは、この授業について、1週間当たり平均何時間の授業時間
以外の事前事後学習をしましたか?
- 15 あなたが良いと思った点と改善してほしいと思った点を自由に
記述してください。【回答省略】

授業評価アンケート項目の構造整理と総合評価・学習関連分析

因子分析・信頼性分析・重回帰分析等による学内報告サマリー

20260925 教学運営室 IR 担当吉川博行

目的：質問項目の重複・削減可能性を検討するとともに、学生の授業総合評価（Q13）と関連する評価領域を探索的に分析。その結果を受け授業総合評価に関連する要因を整理するとともに、学生の自主的学習努力（Q2「2.あなたは、予復習など自主的な学習努力をしましたか？」）と成績（GPA）、卒業研究・制作授業と授業外学習時間の関係を追加検証し、授業改善上の示唆を得る。

分析ツール：SPSS と Tableau を使用。

1. 分析の流れ※同一学生が履修する複数授業の回答結果について実験的に実施したものである。

	分析手法	目的・判断
① 尺度構成	主因子法・プロマックス回転、信頼性分析	Q4～6＝「授業設計・運営」（Cronbach の $\alpha=.815$ ）、Q7～10＝「学習成果・学習意欲」（Cronbach の $\alpha=.864$ ）として平均得点化。
② 総合評価	階層的重回帰分析	Q13 総合評価との独自の関連と、教員熱意の追加説明力を検証
③ 成績との関係	一元配置分散分析※	自主的学習努力の回答群、および総合評価の回答群による通算 GPA 平均差を比較
④ 学習時間	記述的比較	卒業研究・制作授業と通常授業の授業外学習時間分布を比較

2. 主要結果

総合評価との関連 (階層的重回帰) 従属変数： Q13「授業総合評価」 独立変数： 「授業設計・運営」 「学習成果・学習意欲」 「教員の熱意」	【主要結論】 <u>学生の総合評価は、①学習成果・学習意欲、②授業設計・運営、③教員の熱意の順に強く関連した。</u>3 領域に集約しても、10 項目個別投入モデルとほぼ同等の説明力が得られ、学内説明用の簡潔な分析モデルとしては有効であると考ええる。 【解釈上の注意】 本結果は<u>過去 3 年分の同一アンケートの関連を示すもので、因果効果の証明ではない。</u>厳密な検証には科目属性や学部をピンポイントで抽出する必要がある。	学生が授業を総合的に高く評価する場合、学習成果・学習意欲の実感との関連が最も強く、授業設計・運営および教員の熱意にも独自の正の関連が認められた。また、追加分析で教員熱意を追加すると、総合評価の説明率は 54.6%から 55.9%へ上昇し、1.4 ポイントの有意な追加説明力が確認された。したがって、<u>教員の熱意は、</u>他の 2 尺度と重なる部分を持ちながらも、学生の<u>授業総合評価と独自に関連する要素かもしれない。</u>ただし、教員の熱意とは、視点が教員と学生で何を指すのが漠然としており、この要素については議論の余地があるとも考える。
Q2 自主的学習努力と GPA	自主的学習努力の実感が高い群ほど GPA 平均が高い傾向が示された。	
Q13 総合評価と GPA	回答 1～4 の通算 GPA 平均の群間差は小さい。総合評価の高低が成績を大きく左右するとは解釈しにくく、実質的な関連は限定的と示唆された。	
卒業研究・制作と学習時間	通常授業では「30 分未満」「30 分以上 1 時間未満」が中心である一方、卒業研究・制作授業では「1 時間以上 2 時間未満」「3 時間以上」の構成比が相対的に高い。卒業研究・制作は授業外学習時間を伸ばす授業形態とみられる。	

3. 統合的な解釈と授業改善上の示唆

【統合的解釈】 ・「授業を高く評価した」こと自体は GPA 差を大きく説明しない。 ・一方、「自主的に学習した」という行動・実感 は GPA の高さに対応する。 ・卒業研究・制作は長時間の授業外学習を促す可能性がある。 ・したがって、授業改善では満足度向上だけでなく、自主学習を実際に引き出す課題設計・支援が重要である。	【施策への示唆】 ① 学習成果・学習意欲を中心指標とする ② シラバス・教材・時間配分を改善する ③ 教員の熱意を学習行動につなげる ④ 卒業研究・制作型の自律的学習要素を専門科目へ段階的に展開する
--	---

① 自由記述について

自由記述欄（良かった点・改善してほしい点）には、授業改善への意見という範囲を超え、教員個人への誹謗中傷と言える記述が見られた（年数件）。現在の運用では担当教員のみが自由記述を閲覧できる仕組みとなっており、対象の教員がこういった書き込み内容を個人で抱え込んでしまうリスクがある。特に非常勤講師においては、プログラム主任などに表面化されないまま担当辞退につながっているのではと思われる件もあった。

教育改善のための率直な意見は尊重しつつ、誹謗中傷や人格否定など、もはや暴力に該当する記述については、教員の心理的安全を確保すべく学生に対し、誹謗中傷や人格否定を含む記載については、回答者調査など厳正に対処する旨の告知が必要ではないかと考える。

② 授業アンケートに対する教員への調査について

授業アンケートの集計結果そのものを見ることも重要だが、このアンケートによってどれだけ授業改善が促進されたのかを検証する必要があるのではないか。「効果があつたと聞いた」など少数意見への感想ではなく、教員が感じた授業アンケートの課題点などを、例えば学部会議での共有など、効果検証が必要ではないかと考える。

③ 教員からの学生へのフィードバックについて

授業アンケート結果を教員から学生へコメントを行っているが、実際にアンケート結果を確認すると、毎年同じコメントを記載されている授業がある。

④ 実施、設問設計について

本来教員自身の授業改善に使用する趣旨であつたものを、大学全体の効果検証として活用することに無理があると考ええる。例えば学部や学年など受講者の性質が異なることが多く、「Aさんの意見を拾う＝Bさんの満足につながる」とは限らない。いっそ教員が個別に質問項目を設定した上で実施し、大学として必要な質問のみ共通項として加え、他の質問項目については教員裁量に委ねることで、シナジーが発揮されることによる調査実施への理解浸透、教員自身の意欲的な効果検証、大学としても回答率向上が期待されるのではと考える。

以上